

### 3 - 4 . 報告書作成変更

- ・ 3 - 1でログインを行うと、分析結果報告書メニュー画面が表示されます。
- ・ 分析結果報告書メニューには、入力状態が表示されています。

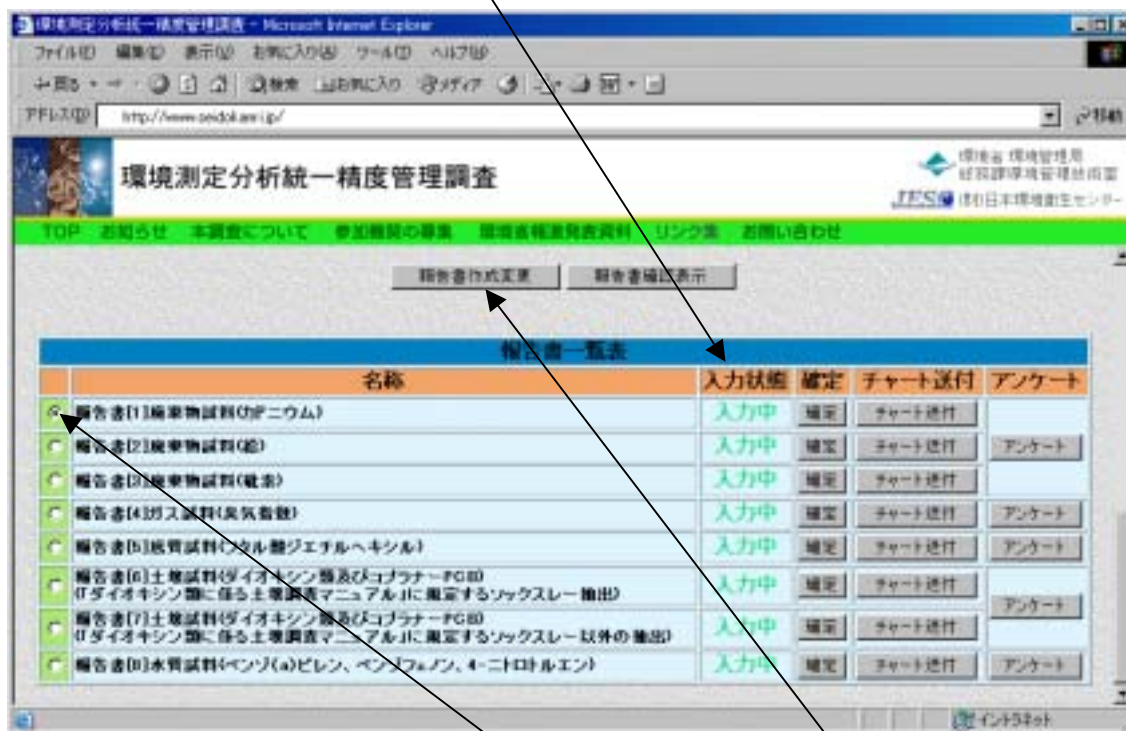


図 3-4.1 分析結果報告書メニュー画面 報告書一覧

- 「未入力」 : まだ入力が行われていない状態です。
- 「入力中」 : 入力が途中まで行われている状態(一時保存されている状態)です。
- 「確定」 : 入力が確定した状態(変更できない状態)です。

- ・ 分析結果報告書メニューから入力しようとする「分析結果報告書」を選択し、「報告書作成変更」をクリックすると別画面にて「報告書作成変更画面」が表示されます。

環境測定分析統一情報管理システム - Microsoft Internet Explorer

一括保存 前ページ 次ページ 1 / 2 ダイレクトジャンプ

報告書のページを一時保存しました。

### 分析結果報告書[1] 1/2

#### 1.1 廃棄物試料 (カボミウム)

TEL		
分析主担当者の名		
分析主担当者の経験年数		年
分析主担当者の実績 (年間の分析試料数)		

測定回数	分析結果(mg/kg) [注1]	
	検出下限値以上 [注2]	検出下限値未満での検出下限値 [注3]
1回目		
2回目		
3回目		

[注1] 一旦受領した結果については、訂正があっても受け付けませんので、記入間違いや単位間違い等に注意する。  
 [注2] 3回の分析結果を有効数字3桁で記入する。  
 [注3] 有効数字1桁で記入する。

分析開始月日 月 日  
 分析終了月日 月 日

分析方法

< 試験溶液の調製 >

試料量	<input type="text"/>	g
試験溶液の調整に用いた體の量 [注4]		
硝酸	<input type="text"/>	ml
塩酸	<input type="text"/>	ml
過塩素酸	<input type="text"/>	ml
試験溶液の量(定容量)	<input type="text"/>	ml

[注4] 使用しない體の量は「0」と記入する。

< 溶液抽出 >

溶液抽出	<input type="text" value="-未選択-"/>	
試験溶液の分取量	<input type="text"/>	ml
溶液の種類	<input type="text" value="-未選択-"/>	<input type="text" value="その他"/>
抽出回数	<input type="text"/>	回
溶液の使用量	<input type="text"/>	ml/回

図 3-4.2 分析結果報告書作成変更画面

・入力方法は、「2. 記入方法」に従って下さい。又各分析結果報告書の共通事項を記します。

表 3-4.1 各分析結果報告書の共通事項

分析主担当者	全角入力。実際にその項目の分析を手がけた人の氏名（複数で分析を行った場合は主として実施した人の氏名とする。ただし、分析結果報告書 [ 6 ] [ 7 ] の土壌試料（ダイオキシン類及びコプラナー P C B ）については、「抽出」、「クリーンアップ」、「GC/MS分析」の操作ごとに手がけた人の氏名を記入する）。
分析主担当者の経験年数	数値（半角）入力。該当項目の分析業務経験年数（分析結果報告書 [ 6 ] [ 7 ] については、分析操作ごとに経験年数を記入する）。
分析主担当者の実績	数値（半角）入力。分析主担当者が昨年度 1 年間に分析を行った環境試料の該当項目のおよその試料数（分析結果報告書 [ 6 ] [ 7 ] については、分析操作ごとに試料数を記入する）。

・各分析結果報告書の入力項目の詳細は、「4 . 各報告書の詳細」を参照して下さい。

・操作ボタンについて

「一時保存」：現在入力中のページを一時保存します。

「前ページ」：前ページがある場合、現在入力中のページを一時保存し、前ページに移動します。

「次ページ」：次ページがある場合、現在入力中のページを一時保存し、次ページへ移動します。

「ダイレクトジャンプ」：現在入力中のページを一時保存し、指定したページ番号に移動します。

上記の操作を行うと、操作ボタンの下のメッセージエリアにアナウンスが表示されます。

・入力操作が終わりでしたら、一時保存を行った後に、ブラウザ右上の「x : 閉じる」ボタンをクリックし入力画面を閉じます。

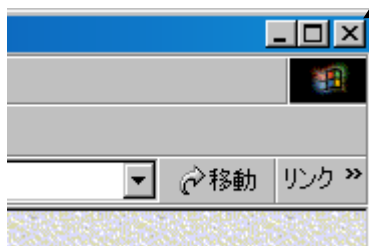


図 3-4.3 分析結果報告書作成変更画面 閉じる

- ・分析結果報告書メニュー画面の報告書一覧の入力状態が「入力中」と表示されます。

入力の途中であったり、後で追加記入や修正を行う場合には、「一時保存」をすることができます。「一時保存」することによりデータベースに入力データが保存され、次回入力画面を開いた時には自動的にそのデータが読み込まれます。これにより、複数日にわたっての記入が可能です。「前ページ」「次ページ」「ダイレクトジャンプ」ボタンでページを移動するときには入力したデータが自動的に一時保存されますが、入力画面を閉じる際やコンピュータをシャットダウンする際などには自動的に一時保存はされません。また、入力画面を開いたまま、一時保存、前ページ、次ページ、ダイレクトジャンプ、ユーザ情報変更、パスワード変更など、サーバからデータを読み込むあるいは書き込む操作をせず 24 時間経過しますとサーバとの接続が切断され、自動的にログアウトされます。一時保存は入力中いつでも行なえますので、ある程度データを入力なさった段階で、一時保存を行なうようにして下さい。

提出期限を過ぎると入力できなくなります。

参加者専用ページへのログインは、とある 1 つの分析機関に対して複数人のログインが可能です。その際は一番最後に保存した人のデータが優先されて保存されますので注意して下さい。(例えば、機関に対して、3 台の PC で A さん、B さん、C さんの 3 人の方が同じ時間帯にログインして報告書の入力作業が行えます。A さん、B さん、C さんの順番で保存処理を行った場合は C さんの入力内容が優先されて保存されません。)

### 3 - 5 . 報告書確認表示

・ 3 - 1 でログインを行うと、分析結果報告書メニュー画面が表示されます。( 図 3-4.1 参照して下さい。)

・ 分析結果報告書メニューから表示しようとする「分析結果報告書」を選択し、「報告書確認表示」をクリックすると別画面にて「報告書確認表示画面」が表示されます。

分析結果報告書[1] 1/2

1.1 廃棄物試料 (カドミウム)

分析士署名		
分析士署名の登録年	12年	
分析士署名の実績 (本回の分析試料数)		

測定結果	分析結果 (mg/kg) (注1)	
	検出下限値以上 (注2)	検出下限値未満での検出下限値 (注3)
1項目	215	0
2項目		
3項目		

注1) 一旦登録した結果については、訂正があっても登録内容は変更しないので、記入欄違いや単位間違い等には注意する。  
 注2) 0以下の分析結果を有効数字3桁で記入する。  
 注3) 有効数字1桁で記入する。

分析開始年月日	06月 14日
分析終了年月日	06月 08日

分析方法: フローム蒸子法

< 試料調査の調整 >

試料量	1.0g
試料調査の調整に用いた量の重 (注4)	硝酸 21mg 塩酸 54mg 過硫酸 0mg
試料調査の量(定容量)	100ml

注4) 使用しない量の重は「0」と記入する。

< 測定抽出 >

測定抽出	実施する
試料調査の調整量	100ml
試料の種類	3 キッチン
検出限界	4mg/kg
試料の定容量	40ml/個
試料の定容量	100ml
試料調査の調整	100%調整

図 3-5.1 分析結果報告書確認表示画面

・ 操作ボタンについて

「前ページ」: 前ページがある場合、前ページに移動します。

「次ページ」: 次ページがある場合、次ページへ移動します。

「ダイレクトジャンプ」: 指定したページ番号に移動します。

- ・各分析結果報告書の内容の確認が終了したら、ブラウザ右上の「x: 閉じる」ボタンをクリックして、分析結果報告書メニューへ戻ります。

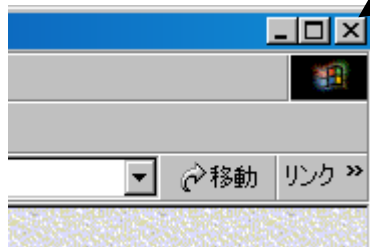


図 3-5.2 分析結果報告書確認表示画面 閉じる

- ・印刷について

各種分析結果報告書の印刷は、ブラウザの基本機能で実現されます。方法は、「3 - 6 . 報告書の印刷」を参照して下さい。